

福岡市内で書店『ブックスキューブリック』をいとなむ大井実さんの、本のある日常をつれづれに。
撮影/川上信也

パワフルでのびやか、リズムのある作品が心をあたためてくれる、冬の日々



『てつぞうはね』
ミロコマチコ/ブロンズ新社
/1,470円



パワフルでありながらのびやかで、繊細でありつつおおらか。そのようなメリハリが印象的な作品を、今月はセレクトしてみました。ひとつは今、話題の絵本『てつぞうはね』。12年にデビュー作でいきなり日本絵本賞大賞を受賞した新人作家・ミロコマチコさんの作品です。古くからの名作が相変わらずの人気を占める絵本業界の中で、彼女の彗星のような登場ぶりは、かなり画期的。今、最も注目を集める絵本作家と言っても過言ではないでしょう。

ご自身が飼っていた猫、てつぞう、との日常を描いたこの物語、ストーリーはもちろん、とにかく絵が素晴らしい。見開きのページごとに描かれたてつぞうは、時にパワフルで、時に繊細で、そして時におおらか。非常に大胆な筆遣いが印象的で、ページをめくるたびに、いたずらでちよっと憎らしくて、臆病で、でもたまらなくかわいいてつぞうのいろいろな表情に夢中になって

しまいます。

実はミロコさんには昨年、私の店で絵本の原画展を開催していただいたんです。その後、秋に開催しているイベント『ブックオカ』で、彼女に文庫本のブックカバーのイラストをお願いしました。この時、カバーに描いてくださったピンクの象が好評で、おかげさまでイベントも大盛況。そういうつながりもあり、クリムの読者の方にもぜひ、読んでいただきたい1冊です。

そしてアルバムは、オーティス・レディングの『ライブ・イン・ヨーロッパ』。20代で命を落としたソウル・シンガーです。彼はとにかく、ハスキーでセクシーな、ツヤのある声が印象的。力強いシャウトと、しつとりと心に響きわたるソフトボイス。大学1年の頃、それまでロック一辺倒だった私が、ソウル・ミュージックの魅力にはまるきっかけとなった、私にとつての、キング・オブ・ソウルです。